

# 1枚の写真をめぐる - 記者は何を表現し、あなたはどう感じたか -

富山県立大門高等学校 江守 恒明

## 1. メディアに対する生徒の意識と授業のねらい

生徒に「メディアに関するアンケートを行った結果、情報を得る方法としてよく利用するメディアは、90%がテレビをあげ、新聞は3%の支持しかなかった。しかし、新聞に対して「信頼できる」「情報が正確」など好意的な見方が多い。また、情報化の進展に伴い、世界中の出来事がほぼリアルタイムに伝わるようになり、テレビや新聞、インターネットから写真や動画による映像としての情報を得ることも可能になってきた。ここでは、新聞の一面を飾った1枚のスクープ写真を取り上げ、事実とは何か、そして、フォトジャーナリストのとった行動を議論する。新聞記事は、現場に出向いている記者の報告をもとにできあがるものであり、写真を撮っているのは現場のフォトジャーナリストである。この当たり前のことに気づかせ、情報操作とはどういうことなのかを考える。また、ネットワークによるディスカッション形式で議論し、生徒からたくさんの意見が出るしかけを考えた。

## 2. 授業計画と授業の進め方

### (1) コンピュータ環境



スクリーン(左)とスマートボード(右)

情報室は、生徒用コンピュータ41台・先生用1台あり、先生用コンピュータの画面を、3台のプロジェクター(前に2台、後ろに1台)で同時に投影している。生徒は、前の100インチスクリーンと72インチのスマートボード、後ろのホワイトボードに投影される画面を見ながら授業を受けることになる。また、この授業ではVBBというディスカッションシステムを利用した。

#### VBB (Virtual Brainstorming Boards)

清教学園の小林直行先生が開発されたCGIプログラムで、Webブラウザで利用できるブレインストーミング用の掲示板である。紙にポストイットをぼんぼんと張るような感覚で利用でき、コンピュータの画面にみんなの投稿意見を一度に見ることができるのが最大のポイントである。

### (2) 単元と指導計画

単元は、情報化が内包する問題(教科書「情報C」、日本文教出版)で、学習指導要領「情報C」(3)ア「情報の公開・保護と個人の責任」(4)イ「情報化が社会に及ぼす影響」に対応している。本時の目標は、次の4つである。

- フォトジャーナリストのとった行動やそのときの心理状態を多面的に考える
- 写真から読み取れる事実と写真から想像できることを区別する
- 合成写真が、実際に行われた事実を知る
- すべての報道は、個人の取材から始まることを再確認する

### (3) 授業の流れ

#### a. 導入

2学期に学習した映像に関すること(構図やカメラアングルによる効果)や映像を企画する段階で話し合ったことを思い出させ、多くの情報は発信者に意図があることを気づかせる。

#### b. 3枚の写真から読みとれる事実と自分が感じることを考える



考えをワークシートに記述する

	写真	写真	写真
事実	子どもを抱えた男の人が銃を持った兵士に止められている。他の人はじっと見ている。	兵士が子どもと男性に向かって銃を向けている。	子どもを抱えた男性が向こうを向いて、兵士になにか言われている。布をかぶった人が兵士を指差している。
感じること	その場が急に緊迫した雰囲気になっているような気がする。	銃口を向けられて緊迫している。	みんなで兵士に何か反論しているように感じる。

生徒のワークシート記述例

#### c. 編集担当者として推薦する写真を選び、その推薦理由を書く

クラスの投票結果は、写真 17 票、写真 13 票、写真 7 票、各写真を選んだ生徒の記述例を示す。

写真番号	写真を選んだ理由
	急に兵士に止められて不安そうな男性の顔が印象に残るから。また、兵士も何か叫んでいるようで迫力があるから。
	両手で銃を持っているところから現地の危険さがとてもよく伝わってくるし、現地の人々の表情や子供を抱えているところからも、心配な気持ちなども伝わってくるから。
	右下の紺色の服を着ている人が、銃を持っている兵士に指を指して何かを言おうとしているところを撮ることで、貧困ということが伝わってくるから。

#### d. 一面に掲載された写真とその真実を知る

新聞の一面 (Los Angeles Times 2003.3.31 付け) に掲載された写真は でした。生徒の選んだ理由のポイントを整理すると、1つは左に立っている兵士、そして真ん中にいる子どもを抱えた市民でした。

2日後の同じ新聞社から、なんと一面に採用された写真は、記者が合成したものであったということでした。実は、生徒に提示した3枚の写真の中で、 の写真は の右側と の左側を組み合わせ合成したものでした。 と の写真は、記者が実際に撮影されたもので、 の写真はそれらを合成して作ったものでした。そこで、次のような発問をしました。

(事実)+(事実)=(事実)?、(事実)+(事実)=(うそ)? になるのでしょうか。また、あなたたちが、編集担当者としてこの記者に対してどのように思いますか。そして、どのような処遇をしますか、(許す)・(許せない)でVBBへ投稿しなさい。



合成写真である証拠とその説明

**D. 記者に同情，記者を許す**

生徒記述例です。《写真を合成することで、見る側により強い印象を与えているし、事実をそれほど変えているわけではないので良い事だと思う。》《二枚の写真を合成した写真を真実だとは言いきれないかもしれないけど、この新聞記者はそうしたほうがより読み手に訴えかけるものが表れてくると思ったからそうしたのだと思う。だからやってはいけないということはないと思う。合成写真を使うことがダメだと決まっているならダメだけだ。》《戦争でもっとも大事なことは何か？武力でも権力でもない・・・情報である。記者は常に真実を伝えなければならない。が、もしこの写真を撮ったのが戦争している国の記者ならば、国のために情報操作をし、少しでも国々の立場を良くする気持ち、思想があるのは当たり前だ。》



記者に対する考え (許す)・(許せない)が投稿されたVBBの画面

**E. 記者の行動を否定・許せない**

生徒記述例です。《見た目をインパクトのある写真に仕上げるために写真を合成することは、この写真記者でもなくても誰でもやりそうなことだと思うが、事実と事実の写真を合成したとしても必ずしも事実とは限らないので、この写真内容が嘘だということもありえる。新聞で嘘を載せてしまったら、世界中の人々を騙すことになり、大規模な被害を起こしかねないと思う。》《二つの写真を合成して作った写真を載せるというのは、事実とはまた反する写真を出しているのと同じだと思う。これが事実の写真であるといえるのであれば、空想の戦争をつくった写真でも、それはまた事実としてとらえられるのだと思う。》《写真の構成やインパクトなどのことを考えると、合成した写真のほうがかなりよくなっていると思います。でも、いくら事実をとった写真だからといっておおくの人がみることになる新聞に、うその、合成写真をつかうのはよくないと思います。》

**e. 記者の実績を知る**

新聞には、誰がこの写真を撮ったが記載されています。実は、合成写真を作成した写真記者 Brian Walski は、“2001 CPPA 45th Annual Gold Seal Contest”の年間1位を受賞していました。Web上に公開されている彼のプロフィールを見ると、アフガニスタンの戦争など多くの取材体験を持った有能な報道写真家であることがわかります。さて、どうしてこのような記者が合成写真ということをしたのでしょうか。編集担当者ではなく、ひとりの個人としてこの記者に対するあなたの考えを書いて下さい。

**F. この記者に対するあなたの考え**

生徒記述例です。《記者の行動が正しいとしたら、真実が真実でなくなってしまう。新聞に載っていることが情報操作によって作り替えられているとしたら、本当に正しい情報なのか信頼性がなくなってしまうと思う。》《もしかしたら私たちの知らないところで情報操作は頻繁に行われているかもしれない。そう考えたら情報化社会とはとても恐ろしい側面も持つのではないか。》《合成した写真によって兵士と男の立場の差をはっきりとわからせてくれて、戦争の怖さがよく伝わってきたけど、素晴らしい写真になったからといって嘘の情報を流すのはいいのかなあ??と思った。》《自分は合成された写真を選んでしまい、後でその写真が合成だとわかったので、とても驚き、同時に記者に対する信頼感を失ってしまいました。ほかに違った場面でも今日のように、合成写真などを信じ込んでしまう可能性があるから、これからは、十分に注意を払っていきたい。》《情報操作をすることが悪いことか善いことなのかを判断するのはとっても難しいと思う。新聞には事実とは違うことは書いてはいけないと思う。》《私はすごい写真記者であっても合成するということは真実を撮ったものではないし、駄目だと思います。それに『情報』というものはどんな時でも真実であるべきだし、真実を伝えることが正しい情報だとも思いました。私たちの身の回りに情報があふれているけど、それが誰かの手によって作られたものだったとしたらショックだし、嫌だなと思いました。》